

タイヤショベルオペレーターのための

サイレージ踏圧マニュアル

第2版

おいしいサイレージ調製の基本は、①空気を抜くこと、②土を混入させないことです。



踏圧作業は、おいしいサイレージ調製の第一歩です！



『土を混ぜず』に、しっかり『空気を抜く』踏圧のポイントを紹介します。



この資料は、豊富町の酪農家・コントラクター事業者の皆さんの協力を得て作成しました。

踏圧作業のポイント「匠の技！」

その1 詰込開始～スロープができる前まで(土台づくり)



① ダンプから下ろされた
原料草



② 土がタイヤに付くのを防ぐため、ダンプ荷下ろし時にショベルが後退する所まで草を敷く



③ バケットを小刻みに動かし
30cm以下に草を薄く延ばす。
※ 真ん中は凹まし気味に



④ 端まで踏む



⑤ 左右の端は斜めに踏み込んでいく。



⑥ 前後・斜めに移動を繰り返し、元の厚さ(30cm程度)の半分の厚さになるまで踏む

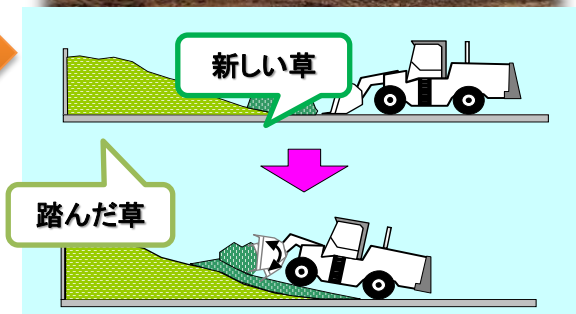
【目安】4分以上踏む

中央を凹ませると、
端まで寄って踏圧できます。

その2 スロープができてから



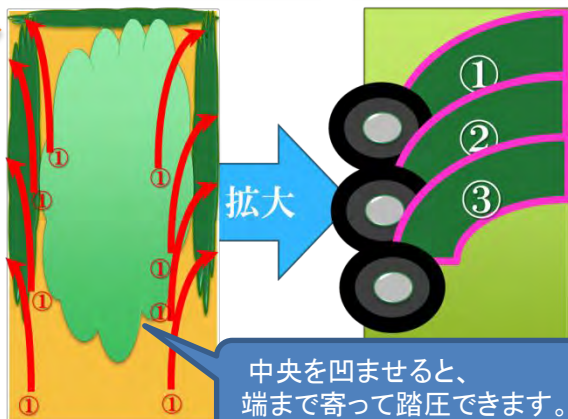
① ダンプから荷下ろし
ショベルは敷いた草の上に待機



② 一度踏んだ草は再びすくい上げず、新しい草のみを前方左右に薄く振り分けながら延ばしていく。

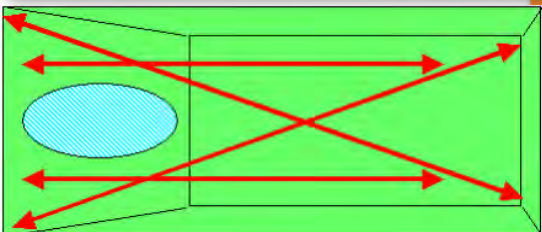


③ スロープは限りなく長く
目標斜度 10°



中央を凹ませると、端まで寄って踏圧できます。

④ 左右の端の部分のを念入りに踏む
タイヤ1本ずつずらしながら踏んでいく①



⑤ 左右の端が固まったらスロープを往復します。



⑥ バックホの登場は一番最後 成形作業のみ

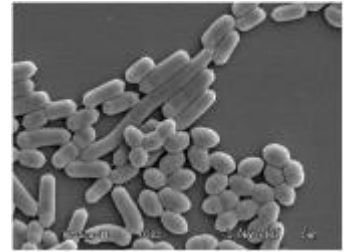
踏圧作業Q&A

Q.なぜ、踏圧が重要なのです？

A.乳酸菌が働きやすい環境を作るためです！

サイレージは、乳酸菌の働きによって牧草を発酵させるため、貯蔵のきく栄養価の高い飼料となります。乳酸菌を十分に働かせるためには、空気のない状態(嫌気状態)を作らなければなりません。

踏圧作業は、原料中の空気を抜いて乳酸菌の働きやすい環境を作るための大変重要な作業です。



乳酸菌は酸素が嫌い

Q.十分踏めたかどうかの判断ポイントは？

A.タイヤの沈み方で判断する場合 ⇒ ほとんど沈まなくなる(10cm)！



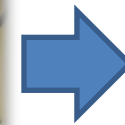
タイヤの厚さ
約30cm

草の延ばし方が厚すぎると、
タイヤはホイルまで沈む。

【拡散厚 30cm以下】



草の延ばし方が良い場合
タイヤの内側が見える。



踏圧終盤
タイヤが半分以上見える。

A.靴跡で判断する場合 ⇒ 靴跡ができる！



靴が完全に沈む。



靴底は沈むが、靴の上面は見える。



靴底もほとんど沈まない。

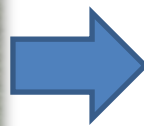


靴跡ができる。

A.タイヤの跡で判断する場合 ⇒ タイヤの跡ができる！



(踏圧前半)タイヤで踏んでも、草が反発し
タイヤの跡は消える。



(踏圧終盤)草の反発が小さくなり、
タイヤの跡が残る。

<<資料の活用に当たって>>

この資料は、豊富町内で普及率が高いスタックサイロにおいて、安全かつ密度が最大限高まるタイヤショベルでの踏圧作業についてまとめたものです。活用に当たっては作業機や作業方法等について、十分留意して頂きますようお願いいたします。

※ お問い合わせは

宗谷農業改良普及センター宗谷北部支所

TEL: 0162-82-2119